

ハローワーク犬山 就職支援業務報告（令和元年度）

1 所長による分析（業務運営の総括）

（1）特に重点的に取り組んだ事項

当所の管轄区域は、名古屋までの交通利便が良く、私鉄でも片道30分以内で通勤可能なエリアであることから特に若年層を中心に名古屋方面での就業希望者が多い地域です。2008年に日本の人口がピークとなって以降少子高齢化の進展（労働力人口の減少）に拍車がかかり労働力の確保が課題となる中で高齢労働者の活用が重要となってきたところ、平成31年度より犬山市が「生涯現役促進地域連携事業」の実施団体として決定されるとともに、同年4月より犬山所に生涯現役支援窓口が設置されました。

そこで、当所では地域の自治体・商工団体等との連携も視野に入れた「高齢人材の活用」を重点課題として、管内企業に対する高齢者活用の意識啓発（主にリーフレット配布）、シルバー人材センターが企画した高齢者向け企業見学会や意欲喚起セミナーへも積極的に協力するなど、高齢求職者の再就職促進に力点を置いて取り組みをすすめました。

（2）サービス改善・業務改善を図った事項

令和2年1月にハローワークシステムが刷新されることを見据え、令和元年10月に庁舎内の利用者導線の見直し（レイアウト変更）を行いました。具体的には、1階にあった雇用保険適用担当と専門援助担当と入れ替え、1階＝求職者系相談フロア、2階＝事業所系相談フロアとして整理し、利用者目線で少ない移動範囲で複数の用件を済ませることが可能なものへと改善しました。これにより、例えば障害を有する求職者が雇用保険手続きに来所した場合、従来であれば1階→2階→1階と手続き内容ごとで移動をしなければならなかったものが、1階：総合受付→専門援助窓口→雇用保険給付窓口と移動がスムーズになり、求職者本人への心的・肉体的負担軽減が図られました。

(3) 今年度見えてきた課題とそれを踏まえた今後のサービス・業務改善の取組について

刷新されたハローワークシステムは、求職者が所有するモバイル端末をフルに活用し、求職者自身でサービス内容を選択し効率的に求職活動ができる仕組み（ハローワークに来所しなくても、来所する求職者と同等のサービスが受けられるもの）で構成されていますが、前述したような高齢求職者に力点を置いた職業相談には馴染まない部分（スマホを所持していない者、スマホ使用が不得意な者など）もあります。これまでのハローワークでは想像できないくらい提供するサービスが多様化する中、サービスを提供する側として求職者ごとのニーズを的確に見立て、そのニーズに応じたサービス提供ができるような体制づくりや業務内容にしていく必要があります、そのためには各自（職員・相談員）がこれまで持っていた以上の意識で体制・サービス内容を検討する必要があると思料します。

2 総合評価 (※)

標準的な評価

※ 業務量や業務の特徴などが同じようなハローワークとの比較による評価

3 特記事項

当所管轄は3市2町あり、それぞれ観光主体の地域や製造業主体の地域など、所属規模感（職員17名）の割に地域特性がバラエティに富んだエリアです。ハローワークとして何らかの取り組みを図るにあたり、どの市町に対しても足並みを揃え画一的なもので行おうとしてもなかなかうまくいかない実感があります。場合によっては地域の実情（例えば犬山市は健康社会の実現、江南市は人口減少を見据えた積極的な企業誘致など）・指向性・ニーズなどを踏まえてアレンジしつつ、弾力的に取り組みをすすめる方が理解を得られやすい特徴があります。

4 マッチング関係業務の成果（主なもの）

	就職件数	充足件数 (受理地)	雇用保険受給者 早期再就職件数	求人に対する 紹介率	求職者に対する 紹介率	生涯現役支援 窓口での65歳 以上の就職件 数	障害者の就職 件数	正社員求人数	正社員求人数	
実績	1,695	1,528	840	31.9%	42.3%	79	163	8,318	725	
目標	1,941	1,672	825	35.9%	44.1%	54	159	8,268	916	
目標達成率	87%	91%	101%	88%	95%	146%	102%	100%	79%	

※ 「目標達成率」は年度当初に設定した目標値に対する達成率